

都心集中豪雨

災害発生日 平成17年9月4日～5日

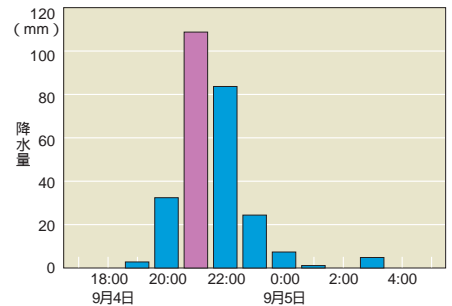
主な被災地 関東地方

首都東京を襲った時間雨量100mm 護岸崩落、地下浸水など被害続出

ゆっくりと勢力を保ちながら動く台風14号が、日本列島に停滞していた秋雨前線を刺激、都心部に集中豪雨をもたらした。

9月4日夜から5日未明にかけ、都内および近郊で洪水被害などが続発した。

9月4日から5日の都内降雨状況
(東京都下井草観測所)



[資料提供 / 東京都建設局河川部]

台風14号が秋雨前線を刺激 都の想定を超える雨をもたらす

9月4日、台風14号が関東地方北部から中国地方北部にかけて停滞していた秋雨前線を刺激。5日未明にかけて都心部に集中豪雨をもたらした。

都心部での翌5日6時までの24時間総雨量は、東京都練馬区で242mm、杉並区で240mm、三鷹市で225mm、24時間

のうち最大で1時間に100mmを越す集中豪雨があった。

東京都が整備対象とする46河川については、1時間に50mmの豪雨を対象として治水整備を進めてきた。しかし、今回の集中豪雨はその倍の雨量で、都の整備事業の計画以上の雨だった。

1都2県で浸水被害多発 夜中に避難命令も

集中豪雨で首都圏各地に被害が出た。東京都では中野区、杉並区などで床上・床下浸水等が6754棟だった。埼玉県ではさいたま市や蕨市などで床上・床下浸水が1581棟。神奈川県では横浜市や川崎市を中心に90棟が床上・床下浸水し

インタビュー Interview

楽しんで行う日頃の訓練が役立った

遊びの中から防災意識を高め、いざという時に備える

西島 昭雄氏 桃井第三小学校「おやじの会」初代会長

9月4日、東京都杉並区の善福寺川が氾濫した際に、桃井第三小学校「おやじの会」では日頃のコミュニケーションと訓練の成果から、迅速な避難誘導ができた。その秘訣について「おやじの会」初代会長・西島昭雄氏に伺った。



「おやじの会」発足の経緯と組織について教えてください。

今から10年前。当時の校長先生と教頭先生から、夏休みの校庭を使って親と児童が交流する場を設けられないかと持ちかけられたのがきっかけです。親と児童の会ということで「おやじの会」となりました。発足時に、PTAとは別の組織としてイベントをやらせてくださいとお願いしました。親子のコミュニケーションを主眼に地域と密着した会を目指したのです。現在は25人程度の父兄が中心になって活動しています。

災害当日の状況を教えてください。

善福寺川の近くに住んでいる方から、川が氾濫していると連絡が入りました。すぐに「おやじの会」のメンバーに召集をかけ

る一方、小学校の防災倉庫、体育館の鍵を開けて避難場所を確保しました。その後、地域全体が停電になり体育館の電源も切れてしまったのですが、防災倉庫に何があるのかを知っていたので、発電機を動かして急場をしのぐなど、日頃の訓練が役立ちました。

日頃の活動は、どのようなことをされていますか。

「おやじの会」は、1年中行事があります。地域の祭りへの参加や清掃活動、親子で料理&スポーツ大会など様々です。

防災訓練への取り組みについては、いかがですか。

夏のキャンプは、楽しみながら防災意識

を高めるという趣旨で行っています。防災倉庫にある食材やテントを使って校庭で宿泊するのですが、火の起こし方や水のろ過方法を教えたりして、遊びの中で経験させることを続けています。

また、消防署や区の協力を得て行う、起震車を校庭に呼んでの訓練など、地震などの被災時に備えています。

今後の取り組み方や、他の方が参考になることについてお聞かせください。

今後は消防団と連動することや、地震だけでなく様々な状況を想定して、遊びの中で訓練をした方がいいと思います。また避難所では、お母さん方の細やかな気遣いが避難者の方を安心させる面もあるので、女性の活躍も必要だと思いました。

た。中野、杉並の両区では、地下、半地下の浸水が相次いだ。今回の浸水を重くみた杉並区では、地下室や半地下構造の届出制を始めた。

中野区では一部地域で一時避難勧告が出されたほか、妙正寺川の護岸が約50mにわたって崩落するなどの被害により、夜中に12世帯18人に対して避難命令が発令された。杉並区、調布市、埼玉県和光市などでも、地域住民が近くの学校などに自主避難した。

建設中の調整池に緊急流入措置 浸水被害の軽減を図る

東京都では、神田川の洪水対策として

環状7号線の地下に調整池を建設してきたが、今回の洪水では既設の調整池に24万m³を貯留したものの満杯となったため、工事中であった調整池にも緊急流入措置をとって約18万m³を貯留。その結果、約30haの浸水被害軽減を図った。

水害以外の被害では、杉並区を中心に一時7000世帯で停電があったほか、横浜市では水道ポンプ場付近へ落雷した影響で、青葉区と都筑区の約5100世帯が一時断水状態となった。

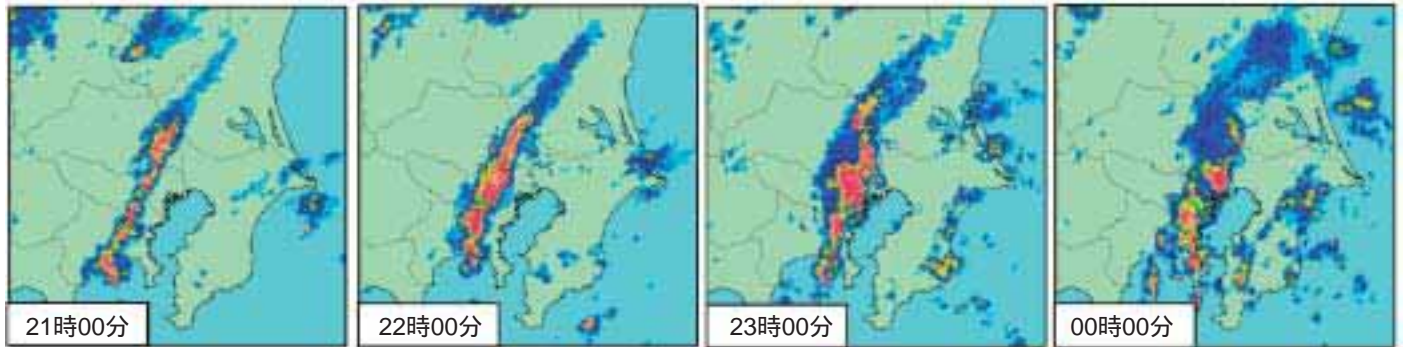
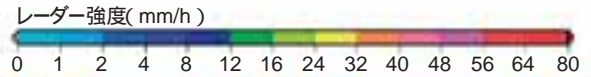
交通機関にも影響が出た。JR東海道新幹線や、集中豪雨のあった中野、杉並の両区を路線とする地下鉄・東京メトロ丸ノ内線でダイヤが乱れた。空の便は、

主要都市や離島を結ぶ300便以上が欠航した。



地下調整池への緊急流入措置
〔資料提供 / 東京都建設局河川部〕

レーダーエコー強度図(全国合成レーダー)
平成17年9月4日の降雨状況(4日21時~5日0時)



〔出典 / 国土交通省資料〕

【JR福知山線事故より】

「共助」の精神が救出・救護活動に貢献

阪神・淡路大震災での教訓が大きな力に

死者107人、負傷者549人。JR福知山線の脱線事故で、列車内に取り残された乗客を救出するべく真っ先に現場に駆けつけ救助活動にあたったのは、近隣の企業・住民だった。

阪神・淡路大震災で学んだ共助の精神が、多くの人命を救った。

事故で、いち早く現場へ駆けつけて救助活動にあたったのは近隣の企業や住民だった。何らかの活動をした企業は約30社、約400人にのぼった。尼崎市中央卸売市場や近隣工場の職員、地元住民の協力によって列車内に残された乗客の搬出、負傷者の応急手当・病院への搬送、タオルや氷・水・工具の提供、二次災害に備えた消火器の準備などが行われた。また、企業・住民の手による医療機関への搬送は、約40台の車両を使用して、約

140人の方々にのぼった。

こうした迅速な対応によって、多くの人命が救われた。

「ボランティア元年」と称された阪神・淡路大震災の、「共助」の精神が大きな力となったと考えられる。

後に、救助活動等その他事故対策活動への協力で多大な貢献のあった多数の企業・団体・個人等に対して、国土交通大臣、兵庫県警本部長、尼崎市市長などから感謝状の贈呈、表彰がなされた。

また、1企業と1個人に対して紅綬褒章が授与された。



〔写真提供 / 時事通信社〕